

## 1 教育方針及び目標

### (1) 教育方針

大学校においては、農業の振興方針に基づき、先端技術を活用し、講義、演習、実習を有機的に結合した実践的な学修を通して、中核経営体や産地に就業する担い手及び地域農業の振興に指導的役割を果たす、創造力と実践力豊かな即戦力となる人材を育成する。

### (2) 教育目標：ディプロマポリシー

教育方針のもと、次に掲げる事項を、卒業までに学生に対してどのような力を身に付けさせるかを示した教育目標として定める。

- ①就業先の実情を踏まえた実践的な知識・技術の育成
- ②進展著しい先端技術への対応能力の育成
- ③法人の中核を担うための経営管理能力の育成
- ④地域の活性化に資する知識・技術の育成
- ⑤コミュニケーション能力やマナー等の豊かな人間性の育成

### (3) 教育計画：カリキュラムポリシー

教育目標を達成するため、大学校は、毎年度当初に、授業科目及び授業時数の学年ごとの編成を定めるとともに、授業科目ごとに、学修内容を明確にするため、科目のねらい、教育内容、実施方法、評価方法、担当者等を記載した教育計画を策定する。

## 2 学科の目標

大学校の教育方針及び教育目標を踏まえ、次に示す人材育成を土地利用学科、園芸学科、畜産学科の目標とする。

- ①農業に従事する者として必要な知識・技術を備え、将来、本県農業の振興に貢献する意欲と能力を有する人材
- ②農業関連産業に従事する者として必要な広範な知識を備え、将来、本県農業の振興に貢献する意欲と能力を有する人材

### 3 学科の学修内容

#### (1) 土地利用学科の学修内容について(計画)

本県農業の基礎となる水稻栽培の基礎的な学習を行うとともに、麦・大豆を含めた主要農作物および水田における露地野菜生産に関する幅広い知識や生産技術を習得し、農業法人等の大規模経営における即戦力・経営能力を習得するための学修を行う。

##### ○学修の対象作物

- ・ 水稻 (主食用米、酒造好適米、WCS)
- ・ 麦類 (小麦、大麦、裸麦)
- ・ 大豆
- ・ 露地野菜 (タマネギ、ジャガイモ、キャベツなど)

##### ○主な学修内容

###### ア 作物栽培の基礎知識及び技術

- ・ 実習・演習による作物の生産の習得
- ・ 作物の生理・生態の授業・観察による学修
- ・ 肥培管理・病害虫に関する知識・技術の習得
- ・ 機械作業体系、操作の習得 など

###### イ 水田複合経営・法人経営の知識習得

- ・ 法人等の農業経営体の知識の習得
- ・ 農業簿記などの経営に必要な知識の習得
- ・ GAPなどの適正な作業に関する知識の習得
- ・ 集落営農法人等における実践的な作業や経営手法の学修 など

###### ウ 省力・低コスト栽培技術

- ・ 栽培におけるコスト計算の手法などの学修
- ・ 既存栽培技術の省力化に関する検討・学修
- ・ 試験研究部門との連携による新技術の知識習得 など

###### エ スマート農業技術の習得

- ・ スマート農業の基礎知識に関する学修
- ・ 対応する農業機械等による実践学修
- ・ 新たな技術・機械に関する知識 など

###### オ プロジェクト方式による実証などを通じた理解促進

- 例) ・ 水稻の省力・多収栽培技術の実証 (密播疎植栽培技術の実証、品種による肥料量の増減影響等)
- ・ GPS車速連動施肥機、中耕機などの有用性の実証
- ・ タマネギ・キャベツの機械化一貫体系の組み立てと実証
- ・ キャベツにおける緑肥作物を組み合わせた生産コストの削減

## (2)園芸学科の学修内容について(計画)

### ア GAP (適正農業規範) による適切な農場管理に関する学修

JGAPの「農場管理点と適合基準」に基づき、食品安全や環境保全、労働安全の確保、人権・福祉に配慮した労務管理が行えるよう、日々の実習の中で、法令の遵守や農場管理の継続的な改善を通じて、GAPの必要性や手法に関する学修を行う。

### イ 経営安定の資となる技術・品目に関する学修

現下の経営環境等を踏まえ、省力化、低コスト化、高品質化等に係る栽培技術やスマート技術、オリジナル品目の導入等に係る実証、評価を行う。

#### (ア) 野菜

- ・環境制御システムを活用したイチゴの高品質・安定生産の実証
- ・イチゴにおける複数の天敵を活用した防除体系の検証
- ・白オクラの発芽率向上に向けた種子処理法の検証

#### (イ) 花き

- ・葉面散布によるやまぐちオリジナルユリの葉焼け症抑制対策の検証
- ・新品種導入によるやまぐちオリジナルリンドウの長期出荷の検証

#### (ウ) 果樹

- ・ロボット草刈機を用いた柑橘園の除草管理における省力効果の検証
- ・ブドウにおける果房管理の省力化の検証
- ・ナンにおける土着天敵等を活用したIPM防除体系の検証

### ウ 多様な販路に応じた実践的な流通販売学修

生産と販売が直結した、より効果的な流通販売学修とするため、詳細な生産・出荷計画の策定と事前の企画調整の強化など質的な充実を図る。

#### (ア) 市場流通

- ・計画生産の推進と卸売市場との連携強化

#### (イ) 直接販売

- ・道の駅や直売所への計画出荷と直売向け作物等の提案

#### (ウ) 対面販売

- ・防府市まちな駅「うめてらす」等での対面販売(2回/月)の充実

### (3) 畜産学科の学修内容について(計画)

#### ア 経営の基本となる乳・肉生産技術の習得

##### (ア) 哺育・育成技術の習得

- ・高タンパク質・低脂肪の代用乳を用いた強化哺育と、離乳後タンパク質を強化した飼料を給与する育成プログラムを実践する。
- ・初産分娩月齢 24 か月未満を目標とし、生涯生産量の増強を図る。

##### (イ) 家畜人工授精技術の習得

- ・1年次に家畜人工授精師免許を取得する。
- ・2年次に発情確認や人工授精を実践する。
- ・育種価評価等を用いた交配計画を作成する。

##### (ウ) 生産目標を設定したプロジェクト学修

- ・毎年、乳肉の目標生産量を設定し、生産計画を作成する。
- ・生産実績から目標生産量の達成度を確認する。

#### イ 自給飼料生産技術と低投資型経営の実践

##### (ア) 大型機械を用いた自給飼料生産

- ・1年次に大型特殊及びけん引自動車免許の取得及び機械の操作方法を学修する。
- ・2年次にロールラップサイレージの調製及び利用体系を学修する。
- ・飼料用イネWCSの生産から飼料給与までの栽培・利用体系を学修する。
- ・生産した粗飼料の栄養価分析及び給与計画を学修する。

##### (イ) 山口型放牧の実践と活用

- ・山口型放牧の牧柵等設置方法や牛の馴致方法を学修する。
- ・耕作放棄地対策としての放牧の利点を学修する。
- ・放牧を用いた肉用牛経営を実践する。
- ・放牧を取り入れた肉用牛経営の成績を取りまとめ、その利点や欠点を確認する。

#### ウ JGAP (農場HACCP) の推進

畜産版JGAP実践に向けて、前段である農場HACCP実践のため、各専攻の生産作業工程及び衛生作業工程の整理及び検証に取り組む。

#### エ スマート農業の推進

IOT機器を活用した牛群管理方法や最先端の作業機械等の操作方法を修得し、農作業の効率化や労働生産性の向上に取り組む。